校長メッセージ　～合言葉は「子どもに軸足！」～

東長良中学校　丹羽

感謝と謙虚が幸せにつながる

標題は、10月８日の終業式の校長講話で生徒に伝えることです。夏に行われた東京2020オリンピックを振り返り、選手の試合後の姿から「彼らの自信と誇りは本人の努力は勿論のこと、多くの人に支えられたという周りへの感謝と謙虚な姿勢によってより確かなものになっている。」と伝えます。

故松下幸之助氏も著書「道をひらく」の中でこう述べています。

～この世における人と人とのつながりを、もうすこし大事にしてみたい。もうすこしありがたく考えたい。不平や不満で心を暗くする前に、縁のあったことを謙虚に喜びあい、その喜びの心で、誠意と熱意をもって、おたがいのつながりをさらに強めてゆきたい。そこから、暗黒をも光明に変えるぐらいの、力強い働きが生まれてくるであろう。～

人は満足し、心地よいときに、幸せを感じるものなので、幸せになる秘訣の一つは、どんな小さなことにも感謝できることに気づき、それに感謝する習慣や精神を身につけて、できるだけ多くの満足・感謝を日常的に感じることだということです。言い換えれば、謙虚さと素直さによって、日常的にできるだけ多くの小さな楽しさや感謝を感じられるようになることが、より多くの幸せを感じ、いつでも幸せでいるためのポイントだということです。反対に、謙虚さや素直さを忘れ、利己的な欲望に囚われて普段から不平不満ばかり言っている人は、幸せでない状況を自ら作り出し、幸せになることを自ら拒否している哀れで不幸な人です。つまり、心の姿勢が、人を幸せにも不幸にもしているということです。コロナ禍だからこそ、こういった思考の仕方が自分自身を健全に保ち守ることにつながることを生徒に伝えたいと思います。

diversity（多様性）と inclusive（包摂性）

標題は、東京2020パラリンピックトライアスロンパラリンピアンの谷真海さんがメインプレスセンター記者会見で語ったスピーチのキーワードです。この意味と価値について、10月14日の始業式の校長講話で、東京20 20パラリンピックを振り返り生徒に伝えます。

「diversity」、日本語に訳すと「多様性」と言う意味です。人間には個性や特性があって、その違い（性別や人種、宗教、思想、学歴）をお互いに認め合い、それを活かすことで、世の中が元気になり、社会が発展していくという考え方です。簡単に言うと、「人間は色々あって良いじゃないか」ということです。いま、自分と違う考え方や宗教、人種の人を排除する動きが世界中で広まりつつあります。自分のまわりさえ良ければよい、同じような仲間が集まり、それで安心できるという考えです。とても浅い考え方ですが、残念ながら人間はついつい引き込まれてしまいます。

「inclusive」。外務省の仮訳では「包摂的な」です。一語で表すならこうなると思いますが、わかりにくい印象です。「inclusive」をもう少しわかりやすく説明すると「すべてを含んだ」となります。しかし、この言葉をより明快に理解するには、対義語の「exclusive」とあわせて考えるとわかりやすいです。「exclusive」は「排他的な、閉鎖的な」、権利や所有物について「独占的な」を表します。「inclusive」は、「non-exclusive」つまり「誰も排除しない」と言い換えることができます。そうすると、SDGsの理解が深まるように思います。

こう考えてみると、本校がめざす４つの校風（Help 助け合い・Empathy 共感・Respect 尊重・Open-mind：広い心）が「diversity（多様性）」と「inclusive（包摂性）」に向かうものであることがわかります。後期のスタートにあたり、東長良中学校が昨年度から目指してきた校風が、世界的に求められている先進的な取組であることを確かめ合いたいと思います。